

地球通信

学校法人 国際ことば学院
国際ことば学院日本語学校
〒422-8076 静岡市 駿河区 八幡 3 丁目 2-28
TEL:054-284-8383 / FAX:054-284-8338
www.kotoba.ac.jp ☒ info@kotoba.ac.jp

「ねんきん定期便」が届けてくれたもの

国際ことば学院日本語学校 校長 野田敏郎

暮れに「ねんきん定期便」が届きました。はがきではなく封書のしっかりとしたものです。そこには私の年金の支払い記録、すなわち勤務先とそこでの標準月額報酬までが詳細に記されてありました。

当然ですが、私がこの学校に入った 1996 年当時の「株式会社国際ことば学院」の時の記録もありました。あらためて当時の給与の少なさに驚かされるとともに、その給与に何も不満を抱かずに働いていたのはなぜなのかと、この正月休みにぼんやりと考えていました。この思いがけず届いた「定期便」が、私をふと 20 年前の自分と見つめあう時間を与えてくれました。

当時私は、両親の住む東京の地を離れ一人暮らしでした。安月給でしたから電話もエアコンもテレビも洗濯機さえない生活でした。アパートを出て 30 分かけて自転車をこぎ、毎朝 7 時 20 分までには学校に着き、教室の掃除、教材を印刷します。授業後は非常勤の先生に頼まれた翌日のプリントづくりの他、入学願書の手伝いもして、翻訳の他、書類集めに市役所や保証人さんの勤め先の会社に向くこともありました。不満を言う暇もないくらい働いていました。余暇といえば、韓国の学生から 1 万円で譲り受けた原付バイクに乗ってドライブするのが唯一でした。そんな生活でしたがなぜか不安も不満もなかったように思います。給与の低さで恐れを感じるということはなく、夢中で働いていました。振り返ると、思えば遠くへ来たものだ、というおセンチなものではなく、なぜかあのころのほうが今よりも居心地がよかったとさえ思えるのです。

一方、留学生はどのように感じていたのでしょうか。当時の学校は静岡駅から 10 キロほど離れた麻機地区にありました。海外からあこがれの日本に来て、山に囲まれたのどかな住宅街に建つこの小さな校舎に愕然とし、「思っていたのと違う」という後悔に近い思いをした学生も多かったことでしょう。冬には木枯らしに凍えながらのガソリンスタンドでのアルバイト。部屋にはエアコンなどはなく、歩くときぎしぎしと音のする床のアパートに住み、薄い毛布を何枚も重ねて身にまといしのぐような暮らしぶりでした。

そんな暮らしぶりの彼らにしてみると、こぢんまりとした教室がかえって居心地がよくなるようです。当時の学生文集にこの学校のことを「家族のようだ」と表現していた学生がいました。もっとも、面倒見のいい理事長をはじめ、親身になってお世話をしてくださる身元保証人、苦勞を共にし、励ましあうクラスメイトに温かく見守られていたことを「家族」と表現したかったのだらうと考えられます。

それは小さい学校であったからこそなした共同体です。学校を共同体たらしめているもの——学生同士の励ましあい・助け合い、身元保証人とのふれあい、教職員間の連携など——共に努力し合う姿勢があったのだと思います。

今後のことば学院での私の使命は、卒業生を含め、学校を支えてくださった様々な方の思いも大切にしながら、新たな形で、あのころの共同体のような学びの場の実現に向けて努力することです。次に「ねんきん定期便」が届くのは 59 歳のころだそうです。その定期便は、いったい私に何を運んでくれるのでしょうか。

留学生サンタあらかわ

森下学区 Xmasパレードに参加



12月23日(祝)の夕方5時ごろから静岡市駿河区の森下小学区のイベントに当校の留学生たちが参加しました。留学生たちはサンタクロースの衣装を身にまとい、トナカイそりにプレゼントを載せて町を歩きながら、子供たちにプレゼントを渡し、回るボランティア活動を行いました。

留学生たちはプレゼントを手にした子供たちと握手をしたり、記念撮影に応じるなど、積極的に森下学区のパレードを盛り上げてくれました。

寒い中を森下学区の子供たちのために、ありがとう。

←トナカイそりと子供たち(森下公園にて)

進学先は、もう決まった。

日本語学校留学生の進学状況 数年で大きく変化

国際ことば学院日本語学校の卒業生の8割の進路が年末までに決定していることが進路指導担当による調査で分かりました。今年度の卒業生は138名になる見通しですが、1月6日現在でそのうち8割にあたる112名がすでに専門学校や大学など進学先が決定しています。外国人留学生が高等教育機関へ進学するには通常、大学入試センター試験に相当する「日本留学試験」という試験を6月と11月に受験し、その成績を各大学へ出願する際に提出します。以前は11月ごろから少しずつ進路先が決定し、本格的な受験シーズンに入るのは1月～2月でした。この様子が近年変化し、6月のみ受験し、早々に専門学校や大学を受験し、進路を決めてしまおうとする傾向が強まっています。学校側としては、それぞれの進学先に合わせ、より満足度の高い授業カリキュラムを実施できるよう工夫が求められています。

日本語学校は国の基準で

日本語学校新基準本年8月より施行

外国人留学生を受け入れる日本語学校の新たな設置基準が今年8月1日から設けられます。法務省入国管理局が「日本語教育機関の告示基準」を設置し、これにある要件を満たしていることが求められることになりました。

従前は一般財団法人日本語教育振興協会が作成した「日本語教育機関実施要項」に基づいて日本語学校の審査・認定が行われてきましたが、今後は法務省の作成した告示基準によって直接法務省の審査を受けることとなります。内容に大きな変化はないものの、募集時期など当校も新基準に合わせ変更する項目があります。

日本の産業界における重点課題として、人材不足を補うことと生産性向上を図るための工夫が求められています。政府も人材育成の一環として外国人留学生の受け入れについて本格的に関わろうとしているようです。

常葉大学外国語学部の皆さんが来校 大学生 25 名 日本語学校の授業を見学



昨年 12 月 19 日、常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科で日本語教育について学ぶ大学生ら 25 名(2 年生が中心)が当校の日本語授業を見学しました。大学生は 4~5 名ずつのグループに分かれ、複数の教室で当校の日本語授業を参観、学習者と日本語教師とのやりとりする様子を間近で見学してもらえる機会となりました。

授業見学後大学生からは「留学生たちの行動に驚いた」「日本語教師の仕事を直接見ることができて有意義だった」といった感想が聞かれました。

当校には、この見学をきっかけに日本語教師を目指すようになったという教師もおり、日本語学校と大学間の連携

の好例の一つではないかとみています。静岡県内の日本語教師の人材不足が昨年の静岡新聞で報道されていましたが、この職業に憧れている若い方が大勢いるというのも事実です。これからも当校は日本語教師を目指す若者を応援していきたいと思ひます。

学生の皆さんへ！ ねえ、その火、だいじょうぶ？

去年の 12 月に新潟県糸魚川市というところで 140 棟以上の建物を焼く大火災がありました。火災の火元はラーメン店の鍋でした。このような火災は、決して特別なことではなく、みなさんの住んでいるアパートやアルバイト先でも起こるかもしれないことです。そう、だれでもこのような火災を発生させてしまうこともあるのです。

■火事を防ぐために 冬は火災が発生しやすいので、十分に気をつけましょう。

①火元から目をはなさない

料理で火を使うときには絶対にそばからはなれないこと。

②もえやすいものを火元におかない

灯油ストーブや電気ストーブを使っている人は特に注意しましょう。

③電気製品に気をつける(トラッキング現象や電気ランプなど)

電気プラグや冷蔵庫のうらのほこりから火が出ることがあります。また、電気ランプが高熱になり、それで火災になることもあります。電子レンジの中の汚れから火災になることがあります。とりあつかいに注意しましょう。

【おぼえよう！】

Emergency Telephone Number

火事・救急・・・119



ことばニュース

賤機山で植樹を

毎年恒例“里山づくり”にボランティアとして参加



11 月 20 日(日)、静岡市葵区昭府町付近の賤機山のふもとで地域の“里山づくり”として行われたイベントに当校の留学生ら 28 名が参加し、植樹などの作業を手伝いました。このイベントは、毎年春と秋の 2 回お誘いがあり、来日間もない留学生が静岡の市民とほぼはじめてふれあうチャンス。あたたかいおでんなど食事もふるまわれるなど、学生たちにとってすばらしい交流の機会となっています。

干支のタオル

留学生にタオルのプレゼント



国際ことば学院の支援をしてくださっている小島善明様から、かわいらしいニワトリの絵柄の手ぬぐいを学生の人数分プレゼントしていただきました。

新学期は 1 月 11 日より開始し、登校してきた学生はタオルを一枚ずつ受け取っていました。

酉年にちなんだケッコーなものをありがとうございます。

留学生生活広場

これ、便利！いいモノご紹介

——お金を節約し、知恵と工夫で快適で便利な生活を——

■Vol. 2 18 円切手

メールや SNS 全盛の今、はがき、手紙なんて書かないよ、という人は多いでしょう。ましてこの 18 円切手なんて、「なんで端数？」とツッコミを入れたくなるかもしれません。この切手は年賀はがきなど 52 円はがきをエアメールとして海外に送る際、差額用に貼る切手なのです。エアメールはがきは本来 70 円ですからその差額として 52 円の年賀はがきに 18 円分の切手を貼って出すわけです。それにしても、この日本食の絵柄、受け取る方に喜んでもらえそうですね。

ところで、今年 6 月からはがきが 62 円に値上がりするの、ご存知でしたか？



退職のごあいさつ

国際ことば学院日本語学校事務部 川勝智未さん



“短い間ではありましたが大変お世話になりました。それぞれの違う国から来た学生たちと 3 年間過ごしてきて、刺激的な毎日を味わうことができ、飽きることなく仕事をすることができました。また今まで私を支えてくださった教職員、関係者の皆様に感謝です。ありがとうございました。”

川勝智未さんは事務部若手職員として学生生活指導などに奔走してくれていました。今後のご活躍を期待しております。

編集後記 ♪ 正月休みに巷で話題の『サピエンス全史』を買って読んでいました。冒頭に書いた給与も所詮はサピエンスが作り出した虚構の一部なのだと考えると笑えます。 本年もよろしくお祈りします。 編集・野田